

# 生涯學習情報誌

Life Learning

5 2022  
May  
NO.381



## 知的障害のある人たちが スポーツをする場と競技大会を提供

公益財団法人スペシャルオリンピックス日本

理事長 有森裕子さん

女子マラソン五輪2大会連続メダリスト(1992年バルセロナ銀、1996年アトランタ銅)



# “Be with all” 誰もが可能性を持ちうる社会に

第2回となる2021年度の「生涯学習開発財団松田妙子賞」は、公益財団法人スペシャルオリンピックス日本（有森裕子理事長）の活動が選ばれた。スペシャルオリンピックスは、1968年に故ケネディ大統領の妹ユニス・ケネディ・シュライバーによつて設立され、日本の組織は1994年に生まれた。知的障害のある人たちがスポーツに取り組みプログラムを年間を通じて提供し、成果発表の場としての国内大会の開催、そして世界大会への選手派遣を行う。有森裕子さんは2008年に理事長に就任。全47都道府県の地区組織開設が完了すると、2012年に公益財団法人として改組し、活動が強化された。

LSI会員交流会においてご紹介のうえ表彰式を行う予定が、コロナ感染拡大により中止となったため、2月16日、東京・西新橋の法人オフィスに伺い、表彰式と有森理事長の受賞インタビューを行った。

### ■なぜオリンピックス級の開会式が？

ケネディ家の声掛けによって、世界中の影響力のある人や発信力を持つ著名人が応援をされているのです。世界大会は規模も参加国数も、オリンピックスとそう変わらないのですよ。このところ日本でもパラリンピック競技への注目が高まっていますが、アメリカではスペシャルオリンピックスの方が知名度が高いそうです。世界大会で行われる競技は、一部を除いてはパラ競技と同じですが、残念なことに知的障害



© Special Olympics Nippon

を持つ人が参加できるのは、パラリンピック全体の3%しかないので。アスリートがますます健康や体力を増進し、競技力を向上させ、大会に参加することで自信や喜びを得てほしい。そして、出会いや交流を広げられるよう、活動を充実させたいと思っています。

### ■“Be with all”をどう実現？

2020年からの私たちのビジョンです。松田妙子賞が掲げる“Share your happiness”にも通じると思うのですが、「多様な人々が生き社会の実現」を目指しています。今の世の中

の動きにびったりの言葉で、真剣にインクルーシブな社会にしていきたいと感じています。具体的にはスポーツを通じた「ユニファイド活動」を推進しています。知的障害のある人（アスリート）と知的障害がない人（パートナー）が、同じプログラムに参加したり、混合で試合をしたりするのです。日本ではバスケットボールやサッカーが盛んに行われていて、世界大会にも取り入れられています。実は参加したアスリート以上に、パートナーの人的成長が見られます。なぜかという、圧倒的なスペシャル感がそこでは得られるからなのです。

### ■誰もが有森裕子になれる？

私は生まれながらに股関節脱臼がありました。幸運にも私の親は、私にいろんな機会を与えてくれ、やりたいことを積極的に応援してくれました。でも、場合によっては親が心配して、激しい運動は制限されたかもしれないのです。機会を与えられたからこそ走る楽しさと出会い、可能性を信じたからこそオリンピックスのメダリストにもなれたと思っています。私は選手時代も、現在の活動においても、自分が持つすべての可能性を信じて向き合ってきました。障害の有無にかかわらず誰もが「可能性を持ちうる」と感じられることが大切です。

この賞をいただき本当に励みになります。11月に広島で、第8回スペシャルオリンピックス夏季ナショナルゲームを開催予定です。ぜひ応援、観戦に来てください。

第3回 6/1募集開始

# 生涯学習開発財団 松田妙子賞

# Share Your Happiness!

「生涯学習開発財団 松田妙子賞」は、  
「生涯学習」の新たな発展に寄与する個人や企業・団体を顕彰し、  
その活動内容および「生涯学習」の意義を広く社会に知らしめる目的で、  
2020年に創設しました。

## 松田妙子賞創設の背景



生涯学習開発財団の前理事長 松田妙子は、1983年の財団設立以来約40年近くにわたり、「生涯学習」推進のため、資格認定団体の後援や50歳以上の博士号取得支援など、さまざまな活動を行ってきました。

賞のテーマである「Share Your Happiness」は、大叔父の大森兵蔵、父の松田竹千代を通して松田家に受け継がれてきた「自分が恵まれていると思ったら世の中に恩返しをなさい」というスピリットにもとづいており、松田妙子前理事長が大切にしていた社会貢献の願いが込められています。

松田妙子前理事長は26歳で単身渡米し、帰国後は戦後日本のイメージを回復しようと日本初のPR会社を設立し、日本の住宅品質改善のために日本ホームズや住宅産業研修財団を創設しました。生涯学習開発財団では長寿社会を見越した生き方を提言し、自身も71歳で東京大学博士号（工学）を取得、その研究は大工育成塾創設につながりました。自らが

生涯学習のロールモデルとなり、2019年に亡くなるまで生涯現役を貫きました。

本賞が、松田妙子の「学び続けることが、個人も社会も豊かにする」という意思を受け継ぎ、より良い社会に寄与することを目指しています。

## 正賞・副賞

正賞：記念品

副賞：賞金100万円

## 応募方法

指定の申請書による（財団WEBサイトよりダウンロードできます）

※申請にともなう提出物は返却いたしません

## スケジュール

募集締切：2022年10月3日消印有効

決 定：2022年12月

表 彰 式：2023年1月末予定

お問合せと募集要項の請求は下記まで



一般財団法人 生涯学習開発財団 事務局

〒105-0001 東京都港区虎ノ門1-1-20 虎ノ門実業会館9階 TEL 03-3508-4551

※事務局移転のため、8/13以降は虎ノ門実業会館【8階】へ

募集要項・申請書は→ <http://www.gllc.or.jp> E-mail [gllc@gllc.or.jp](mailto:gllc@gllc.or.jp)

直前にマスクを外し短時間で撮影しています。



# 2021「博士号取得支援事業」 選考決定証授与式

2021（令和3年度）

50歳以上「博士号取得支援事業」



冒頭で理事長・横川浩からご挨拶。

2021年度・博士号取得支援事業合格者の選考決定証授与式が、2022年3月15日、東京・虎ノ門の生涯学習開発財団事務所にて行われた。

本支援事業は、前財団理事長の松田妙子が、60代半ばから研究と論文執筆を開始し、71歳で東京大学博士号（工学）を取得したのをロールモデルとして、2011年度から開始されたもの。

財団理事長・横川浩は「生涯学習も、山の頂はより高く、裾野はより広くであるべき。みなさんは各分野で高みを目指す方々、ぜひ後に続く人たちのお手本になってください」と激励した。

●合格者と研究テーマ

**秋山訓子（53歳）**

「市民のための政策実現に向けて  
政治主導下の政治過程の考察」

**五十嵐浩司（61歳）**

「機械学習活用による  
付着塩分量推定の効率化に関する検討」

**金丸雄一（51歳）**

「環境変動による磯根資源への影響と  
アマ（海士・海女）の適応」

**巢山祐子（53歳）**

「戦後ドイツのエネルギー政策の  
政策合意形成過程分析」

**鞠子和子（73歳）**

「Catholicism, Policy of Toleration, and Essex in  
Shakespeare's Plays and Poems  
（カトリック教、宗教寛容政策とエセックス伯  
シェイクスピアの劇と詩における）」

**皆川晶子（51歳）**

「海流発電による再生可能エネルギーの実用化に  
向けた複数の垂直軸型回転装置周りの流れと動特  
性に関する数値的研究」

（五十音順、年齢は授与式当日）

## 選考の言葉

選考委員長 張 競  
明治大学教授／博士(学術)



本財団の博士号取得支援事業第12回の募集は昨年の12月10日に締め切られ、57名の応募がありました。一次選考では14名の候補者が選び出され、2月15日、第一次合格者の面接が対面とオンラインの同時併用で行われました。最終選考の結果、6名の合格が決定されました。

3月15日、財団において授与式が行われ、横川浩理事長から出席した合格者の一人一人に授与証書と目録が手渡されました。

振り返れば、新型コロナウイルスのデルタ株とオミクロン株の感染流行に振り回された一年でした。厳しい状況のなかでも、資料やデータの収集、現地調査や実験などの研究活動に励み、博士号の取得を目指している応募者の姿に、横川浩理事長をはじめ、選考委員一同は深く感銘を受けました。

今年も理系、文系ともに多数の優秀な応募者がいました。採用枠に制限があり、最終合格者を絞らざるをえません。選考委員にとっては例年以上に難しい判断でしたが、惜しくも選に漏れた方は来年以降も応募するようお願いいたします。

めでたく採用された方々はこの機会を大切に、博士号の取得を目指していっそう精進していただきたいと思えます。そして、学位取得後も新しい目標を目指して生涯学習を続けてください。

皆様のご活躍を支援し、生涯学習を一層推進するために、選考委員一同は皆さんとともに、本事業のますますの発展のために微力を尽くしたいと思えます。

今後ともよろしくお願ひします。



一人ひとりに選考決定証と  
助成金の目録が授与された。



今年もハイレベルな応募者の中から  
選ばれた支援合格者の方々。



コロナ対策のため短時間だったが、  
自己紹介と交流が行われた。「とても  
励みになった」「異分野の研究者と  
話ができたことがうれしい」と感想  
を述べる方が多くいた。

2021年度

# 博士号取得支援決定をうけて



秋山 訓子

53歳

筑波大学大学院  
人文社会研究科  
ジャーナリスト

市民のための政策実現に向けて  
政治主導下の政治過程の考察

## ■研究目的

研究対象には、社会からの強い要望により実現した2つの政策を取り上げた。一つは2011年民主党政権下でのNPO寄付税制の大幅改正で、もう一つは2019年第2次安倍政権下での未婚の寡婦控除の実現。ジャーナリストとして政治やジェンダー、NPO活動などを取材してきたが、記事にして終わりではなく、もっと長期的、総合的に見て、考察してみたかった。日本の社会においてどういう意味があるのか、歴史的な位置づけや未来に向けてどういう展望があるのか、法的な何かを導き出せるのか。政治過程の中でどう実現できたのかを、官僚、政治家、NPOなどのキーパーソンへのインタビューも行い検証する。同時に、両政権の質の違いについても考察する。

## ■合格のコメント

仕事だけでなく、親の介護などさまざまな要因で、研究の時間を捻出するのは大変だった。くじけそうなときに検索で本事業に出会い、励まされた。今は年齢相応の困難に立ち向かうことも、社会人の研究の一環と認識している。アカデミックな分析にとどまらず、市民が政策決定の当事者であるという意識が醸成され、市民の声がより政策に反映される社会の発展に向けて強く訴えていきたい。



五十嵐 浩司

61歳

新潟大学大学院  
自然科学研究科

機械学習活用による  
付着塩分量推定の効率化に関する検討

## ■研究目的

近年、コンクリート構造物の老朽化の進行に伴い、その維持管理の重要性が増大している。橋梁での維持管理対策として付着塩分量の測定技術の検討が行われている。既存研究では三元流体解析を多数回実施する必要があり、橋梁ごとの塩分量推定パラメータを風速・風向ごとに作成する際に、高速並列計算機を使用しても長期間の計算時間を要していた。また、一連の作業には、有限要素解析におけるプリ・ポスト処理も含まれ、熟練解析者の操作が前提となる。本研究では、機械学習法の活用により、橋梁の付着塩分量の効率的評価法を構築して、先行研究のコンクリート橋梁分浸透予測手法での課題である計算負荷軽減等を図ることが目的である。

## ■合格のコメント

30年以上、建設関連の技術者として働いてきた。豊かな未来社会に貢献できる研究を目指し、「建設分野におけるAI・機械学習活用」に取り組みたいと考え、新潟大学大学院に進学した。大学院では、講義等で建設・防災・情報等の先生方とコミュニケーションを取ることで、専門分野以外の知識拡充ができ、有意義であった。今回の合格を励みに、「自我作古（慶應義塾の記より）の志を持ち、建設分野の課題解決につながる研究活動を継続したい。」



金丸 雄一

51歳

総合研究大学院大学  
文化科学研究科  
海士・漁師  
令和4年度 日本学術振興会  
特別研究員 (DC2)

環境変動による磯根資源への影響と  
アマ（海士・海女）の適応

## ■研究目的

9年前、初めてアマと出会った。その存在感と人の営みの力強さに圧倒され、映画屋だった私は直感的に志摩半島に移住した。時と関わりが深まり、映像記録だけではない、学術的な記述が必要と感じ、カメラを「筆」に持ち替えた。時を同じくして、漁場の生態系環境（見えぬ心）とCOMING（見える心）が調査地でも起きた。このような海洋環境や社会状況の変動に対し、志摩のアマがどのような適応を見せているのかが私の博士号研究である。磯根資源とアマ漁民の関係性を紐解くことにより、生態人類学と日本民俗学を統合した視点で、「生き物―漁労採集民」の関係を現在進行形で捉え直す。これは、磯根資源の利用と管理をどうすべきかという社会的命題につながり、沿岸小規模漁民が生計を維持していくための新たな枠組みの提示が可能だ。

## ■合格のコメント

外部観察だけでは本質に迫れないと判断し、自らアマ漁民として地元漁協の正組合員となり参与観察を8年間継続している。海での調査は常に命の危険が伴い油断できない。本支援事業は神谷光信氏（本事業と修士号取得の放送大学でも先輩）のブログで知り応募した。同期も歴代の合格者の方々も、豊富な社会経験の持ち主。若輩者の自分が選ばれたことはとても光栄だ。

2021年度

## 博士号取得支援決定をうけて



巢山 祐子

53歳

上智大学大学院  
グローバル・スタディーズ  
研究科

### 戦後ドイツのエネルギー政策の 政策合意形成過程分析

#### ■研究目的

戦後ドイツのエネルギー政策が、政府と国民の間でどのように合意形成がされていったか、唱道連携モデルを用いて分析・研究をしている。選挙がある国で、国民に不評の原発をどう決定し、逆にエネルギー構成上困難な脱原発を、どう決定していったのか。また東西ドイツ統一を伴って、合意形成過程における民主主義の変容も明らかにする。現在のドイツは、脱原発・脱石炭を決定し、再生可能エネルギーを拡大しているが、すべて転換はできず、比較的低炭素の天然ガスが増えている。日本とドイツのエネルギー事情は似ている。ロシアのウクライナ侵攻に際しても、ロシアの天然ガス輸入を完全に止められない事情がある。日本の今後のエネルギーミックスを考えるうえでの指標に。

#### ■合格のコメント

修士1年目に脳腫瘍が見つかり大手術となった。一度は研究を諦めたが、指導教官の励ましもあり、もう一度修士からと決意し、どうせならと博士課程に進んだ。現在は脱炭素、ガソリン価格の高騰、ロシアとの関係で天然ガスが先行き不明など、エネルギー政策は問題山積。本来なら正常時から考えておくべきで、そのためにも学術面から目を配らせておく意義があるのだと再認識している。



鞠子 和子

73歳

東京大学大学院  
人文社会系研究科

### Catholicism, Policy of Toleration, and Essex in Shakespeare's Plays and Poems (カトリック教、宗教寛容政策とエッセックス伯 シエイクスピアの劇と詩における)

#### ■研究目的

シエイクスピアの時代は舞台で政治や宗教を扱うのは禁止され、研究の面でも宗教的考察が始まったのは1980年代の文学批評理論運動以降である。論文で取り上げた『恋の骨折り損』は、フランス王アンリ4世がフランス統治のために突然プロテスタントからカトリックに改宗した話を、プロテスタントのイギリス聴衆が茶化して喜ぶ喜劇と解釈できる。さらに本研究では、シエイクスピアの真意は、ナントの勅令(宗教寛容政策)の後に急遽訂正加筆された1幕1話の「発布」勅令(大陸法等の文言に表明されている)と考へ、先行研究ではチューダー王朝に忠実だったとされているシエイクスピアが、実は果敢にしかも用心深く、異教徒を残酷に処刑する王朝に立ち向かっていた姿を浮き彫りにする。

#### ■合格のコメント

英語が好きで、サークルでたまたま出会ったシエイクスピアに興味を持った。英国演劇ツアーを経てますます引き込まれ、究めたいと東京大学に入学。東大ではステイヴン・クラーク教授の指導を仰ぎ、シエイクスピア学会で2014年から3年連続発表できる機会もあり、5年かけて博士論文を仕上げられそうだった。シエイクスピアの新たな魅力を共有でき、もし私の研究する姿が他の人の励みになれば、うれしい。



皆川 晶子

51歳

お茶の水女子大学大学院  
人間文化創成科学研究科  
お茶の水女子大学  
附属中学校非常勤講師

### 海流発電による再生可能エネルギーの実用 化に向けた複数の垂直軸型回転装置周りの 流れと動特性に関する数値的研究

#### ■研究目的

脱化石燃料が世界的な課題だが、風力、太陽光、地熱等の再生可能エネルギーによる発電も、天候等に左右される弱点があり、安定したエネルギー源が求められている。周囲を海に囲まれた日本は「海流発電」にも期待がかかるが、本研究では、その実用化に向けて、どのような回転装置をどのように配置すると適しているか、数値シミュレーションによって検討している。海流発電は風力発電同様、流れのもつエネルギーを回転装置によって電力に変換する。海流は風力に比べて流速が遅いことから、プロペラのような水平軸型回転装置ではなく、垂直軸型回転装置を複数配置するのが有効と考えられる。本研究ではその一つ「サボニウス型回転装置」の数値シミュレーションを行っている。

#### ■合格のコメント

授与式翌日3月16日の地震による火力発電所の被害により、東京電力・東北電力管内に「電力需給ひっ迫警報」が初めて出された。様々なエネルギー供給源を持つことは、人々の安心を支える重要なテーマと考えている。セカンドキャリアとして情報教育の教員免許を取得したいと大学院に進学したが、さらに研究をしたくなった。自分の可能性を試したく「今が一番若い時」と博士課程に飛び込んでよかった。